

あさぎり町介護事業所連絡会（Sネット）の取り組み

あさぎり町役場 高齢福祉課

【あさぎり町の概要】

- 総人口：15,571人（高齢化率36.1%） ※H30.12末時点
- 世帯数：5,954世帯
- 要介護認定者数：941人（認定率17.0%）
- 障害者手帳の交付状況
 - 身体障害者手帳：854人 療育手帳：227人
 - 精神障害者保健福祉手帳：164人
- 社会福祉施設
 - 介護：特養(179)・特定(25) 有料(26)・GH(27) ←定員
 - 小多能(2か所)・通介(10か所)・通り八(2か所)・訪介(3か所)
 - 訪看(1か所)
 - 障害：入所支援施設(2か所)・共同生活介護援助(4か所)通い(4か所)
- 基幹産業
 - 農業（水稻、麦、葉タバコ、メロン、きゅうり、肉用牛、酪農など）

【Sネットの概要】

- 介護サービス事業所・社協・行政が協働し、「安心して過ごせる町」を目指し、住民向けの様々な事業を展開
- 各地域に存在する多数の専門職と地域住民が気軽につながることにより、安心して住みやすい町づくりに寄与
- 行政への協力という感覚ではなく、一緒に企画から運営までを担っているのが特徴

※とにかく協力的！

**一緒にやりましょう・どんどん地域に出ていきます！
という感じで地域の一員として活動をしている**

【実施主体】

- あさぎり町介護事業所連絡会（Sネット）
スペシャリティ・セーフティ・サービスの「S」から名称決定
（H27.4に事業所有志で発足）
事業所の参加は自由で、事務局は輪番制
（町内5社会福祉法人・有限会社・JA・包括・高齢福祉課）
- 参加事業所概要
 - ①特養・小多機・通所・居宅 ②特養・養護・通所・訪介・居宅
 - ③特養・特定・通所・通所リハ・訪看・居宅・配食 ④特養・通所・居宅
 - ⑤通所・訪問・居宅 ⑥GH・特定・有料・通所・訪問・配食・学童
 - ⑦GH・小多機・有料

※合併市町村ならではの事業所数の割合が高いこと

[言い換えると…]

専門職が地域に多数いる・相談できる場所が各地域にある

（安心して暮らせる地域の基盤がある！）

①地域住民への周知・協力

- 家族介護教室
- RUN伴
- 認知症カフェ
- 地域サロンへの職員派遣
- いきいき百歳体操の場を提供



(いきいき百歳体操大交流会の様子)

②専門職やSネット関係者

- 在宅医療・介護多職種研修
- 合同研修(事故対応、管理者の)
- 事業所対抗ビーチボールバレー大会
- 忘年会・事業反省会



【Sネットの取り組み：家族介護教室】

「認知症」をテーマに3回コースで開催：講義と実技の2部構成

- ①認知症ってどんなもの
福祉用具の紹介と介助の実際
- ②介護のプロに学ぶ認知症の方への対処法
こんなに便利介護用品！利用方法と使い方のコツ
- ③認知症の予防と治療
これからできる認知症予防体操

(Sネットメンバー以外に、町内サポート医・福祉用具事業所の協力により開催)

※H29年度は「在宅医療」・「認知症」・「看取り」・「福祉用具」・「介護保険」の5回コース

【Sネットの取り組み：家族介護教室】



認知症サポート医の講話



福祉用具事業者による移乗方法の実技



物忘れ診断タッチパネルの体験

【Sネットの取り組み：多職種連携研修】



(研修後に交流会も開催)
様々な職種で顔の見える関係づくり



企画から参加し、開催方式・テーマ・パネラー選出・事例確認まで実行委員会で運営してます

[参加者]

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ソーシャルワーカー・リハ職・介護福祉士・ケアマネジャー・包括・行政などの参加



【Sネットの取り組み：RUN伴】



コースやタイムスケジュールなども「Sネット」で協議



福祉祭りでの募金活動



実行委員の反省会

【Sネットの取り組み：交流部門】



事業所対抗ビーチボールバレー大会
※施設内外の交流ができ、大好評

忘年会も開催



【Sネットの取り組み：体制づくり】

Sネットは、自主的に設立した任意の団体である（財源もない）

事業所の皆さんの「熱意」に行政が並走している感じが、連携強化となっている

協議を進めると、組織の「形」は変わっていき、平成30年度には「研修部会」・「RUN伴部会」・「交流部会」に各事業所から選出されるようになった

**「管理者クラス」だけでなく、
「多くの専門職」が関わるようになった！**

【Sネットの取り組み：今後の展開】

- 地域ケア会議
- 認知症サポーター養成講座
- キャラバン・メイト連絡会
- 居宅介護支援事業所連絡会
- SOSネットワーク など

既存の会議や、「地域」や「企業」・「障害福祉事業所」との連携も強化し、安心して暮らせる町づくりを構築する一役を担っていく

**より多くの方々との関係性を構築していくことが、
「地域づくり」につながる！**